

教育・研究力強化のために技術センターに期待する

研究担当理事・副学長 吉田 総仁

広島大学は、平成 25 年度には、文部科学省の研究大学強化促進事業（RU 事業：H25～34 年度の 10 ヶ年事業）に全国で 19 大学・3 研究機関のひとつとして採択されました。本事業は、我が国のトップクラスの研究大学に重点的な財政支援を行い、研究力を飛躍的に上げ、世界トップクラスの大学との研究競争に打ち勝てるようにするというものです。また、平成 26 年度にはスーパーグローバル大学創生支援事業（SGU 事業）：A タイプ（H26～35 年度の 10 ヶ年事業）に 13 大学のひとつとして選定されました。本事業は、教育力と研究力を強化し、国際的に活躍するグローバル人材を育成するためのものです。両事業ともに、広島大学は世界のトップ 100 大学の一員となることを目標に掲げています。

こうした中で、教育・研究活動の全学的な支援のために技術職員・技術センターの果たす役割は一層大きくなっています。世界トップクラスの大学では、優れた技術職員が、プロ集団として、教育・研究のための技術支援を行っています。広島大学の技術センターは全国に先駆けて平成 16 年に全学一元化組織として出発し、平成 22 年には機能を主体に再編（4 部門 10 班）されています。最近では、東広島キャンパスの 2 ヶ所に分かれていた工作部門を「ものづくりプラザ」として統合し強化しています。RU 事業では、研究力強化のために 8 名の技術職員を事業経費で雇用しています。一方、大学全体では定員削減が続いており、その影響で、特に RU 事業終了後の体制には不安も抱えています。こうした複雑な状況ではありますが、技術職員がセンターに集約されたことにより、互いに協力しあい、組織として技術向上を図ってゆけているのは大きな成果だと思っています。

私自身も、多くの技術職員の方々に支えられて教育研究を続けてきて、技術職員の皆さんの高い技術力をよく知っており、また広島大学のために働く本当に前向きな姿勢には大変ありがたく思っています。今後とも、技術センターの皆さんのご活躍に大いに期待するものです。